

令和2年度版 改善計画

学校名： 山梨県立笛吹高等学校

No	項目	現状と課題	令和3年度に目指すべき状態	①R2年度に実施する内容 ②R3年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議における議題及び連絡報告事項が多いため、場合によっては、時間外勤務になる傾向がある。 ・前年度から引き続き、R1年度も職員会議における報告・連絡事項について、資料説明の有無を明確し、時間の短縮を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議時間を設定し、資料の事前確認ができるよう会議資料指定フォルダを作成し効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①について ・会議資料は、今年度より教務指定フォルダに集約し、運営委員会後の会議資料を確認できるようにする。 ・会議資料の完全ペーパーレス化への取り組みと対応を図る。 ・議題等の提案は、簡潔に要点のみとする。 ・職員会議における報告・連絡事項について、資料説明の有無を明確し、時間の短縮を図る。 ・終了時間を設定する。 ・メールやディスクネット等を活用して連絡を伝達し、会議時間の短縮を図る。 ②について ・会議資料の内容精選を継続的に図り、会議運営について検討する。また、各分掌での会議内容調査を実施し、会議の運用と効率化を図る。 	
2	学校行事の負担軽減	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事は、教育目標の達成のためにも生徒の成長のためにも重要であるが、一方で教員にとって負担が大きい。 ・R1年度も継続して行事の内容精選を行い、ランウォーク大会のコース短縮を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程に基づき、継続した検討により、精選された学校行事を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①について ・各行事の目的や必要性、教育的効果を再検討する。 ・行事ごとの業務をマニュアルにわかりやすく整備し、次年度へ正確に引き継ぐ。 ②について ・学校行事の内容精選と組織化を図る。 	
3	校内組織の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会等の数が多く、主任クラスの教員の会議の回数が増えている。 ・R1年度も昨年度の現状を継続して、各種委員会等の開催を統合して実施するようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌・委員会等の業務の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①について ・運営委員会、職員会議等の年間回数をR1年度削減したことで、さらに組織・運営方法の見直しを図る。 ②について ・分掌・委員会の業務や体制の改善を図る。 	
4	業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教員は、教科指導や部活動指導のほか、各種事務処理、放課後の生徒からの質問への対応、保護者への対応や家庭訪問などの突発事項への対応もあり、時間外勤務となってしまうことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中に完全閉校日を設定する。(R1から開始を継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ①について ・午後8時以降の残留が必要な教員は個別に申し出をしてもらう。ただし最大午後9時までとする。 ・きずなの日(年間24回)を定時退校日として設定し、推進と徹底を図る。 ・夏季休業中の完全閉校日3日を設定する。 ②について ・業務の引き継ぎ資料をわかりやすく作成し、次年度の後任への負担軽減を図る。 ・G-suiteのclassroom活用により、小テストの自動採点を実現して生徒対応の時間を確保できるよう検討する。 	
5	部活動の負担軽減	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の加入率が高く、各部の各種大会での目標設定や生徒たちの要求水準も高いため、練習量や質もかなりのものが求められる。 ・上位大会(全国大会)に進出する部活動も多いため、大会の参加日数なども多くなる傾向にある。 ・部活指導及び大会・合宿の引率に当たる教員の時間外勤務など、負担が大きくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活動方針に基づき、休業日の設定に努め、効率的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①について ・部顧問を複数配置し、協力体制を構築することで一人の負担を軽減する。 ・部活動生徒の完全下校時間を徹底する。 ・部活動時間は、平日2時間程度、土日3時間程度とする。 ・休養日を、土日に1日以上、平日に1日以上設定する。 ・外部コーチや外部指導者を効果的に活用する。 ・部活動におけるマイクロバス運転業務の代行を推進し、教員の負担軽減を図る。 ②について ・部活動の活動方針の徹底を図る。 	
6	地域人材の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探求の時間の中で、笛吹市役所や県立博物館等の職員に協力を依頼している。 ・大学連携なども積極的に行っており、出前授業での活用を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材活用による地域との連携強化の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①について ・行事、授業、部活動等への地域人材を活用する。 ・登校指導などを、PTAや地域の方等に協力依頼する。 ②について ・行事・授業・部活動等への地域人材の更なる活用を図る。 	

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村(組合)教育委員会へ提出する

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった

※様式は、必要な項目が含まれていれば、適宜、変更して使用して差し支えないこと。